

昭島市 市民意識調査

概要版

市民意識調査概要版は、平成20年12月に実施した「昭島市 市民意識調査」を要約したものです。

< 調査の概要 >

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 調査地域 | 昭島市全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の個人 |
| (3) 標本数 | 1,000人 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送留め置き・訪問回収法 |
| (6) 調査期間 | 平成20年12月5日～12月21日 |
| (7) 有効回収率 | 81.8% |

< 調査項目 >

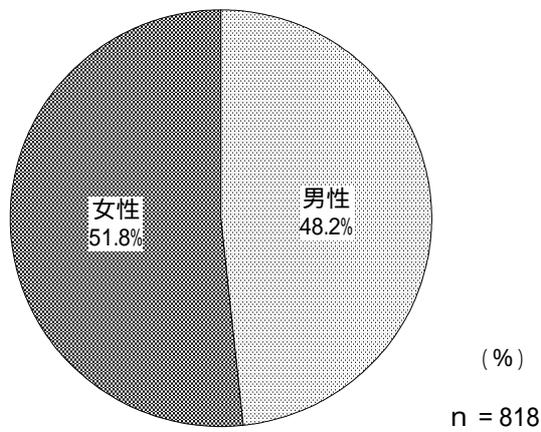
- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 定住意向 | (8) 昭島市のまちづくり |
| (2) 災害対策等 | (9) 少子高齢化 |
| (3) 交通環境 | (10) 国際化 |
| (4) 地域活動 | (11) 情報化 |
| (5) 生涯学習 | (12) 男女共同参画 |
| (6) 環境 | (13) 市政と市民 |
| (7) 昭島の水 | (14) 重点施策と公共施設等 |

本概要版を見る際の注意事項

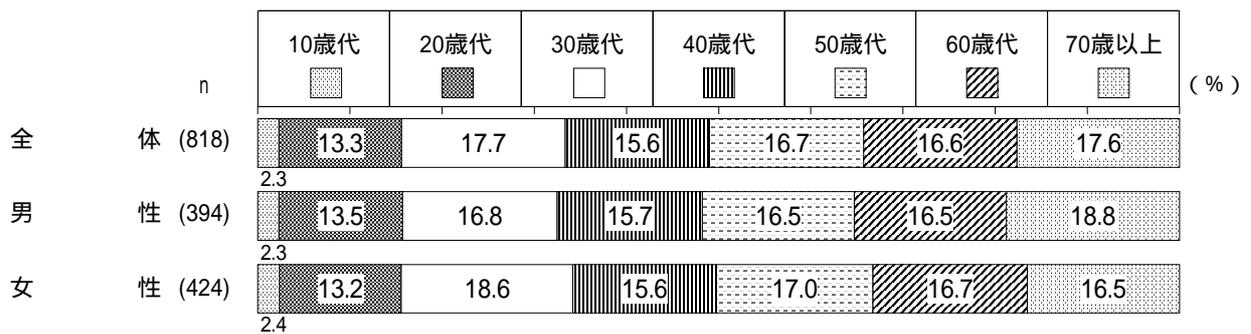
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (4) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

< 調査回答者の属性 >

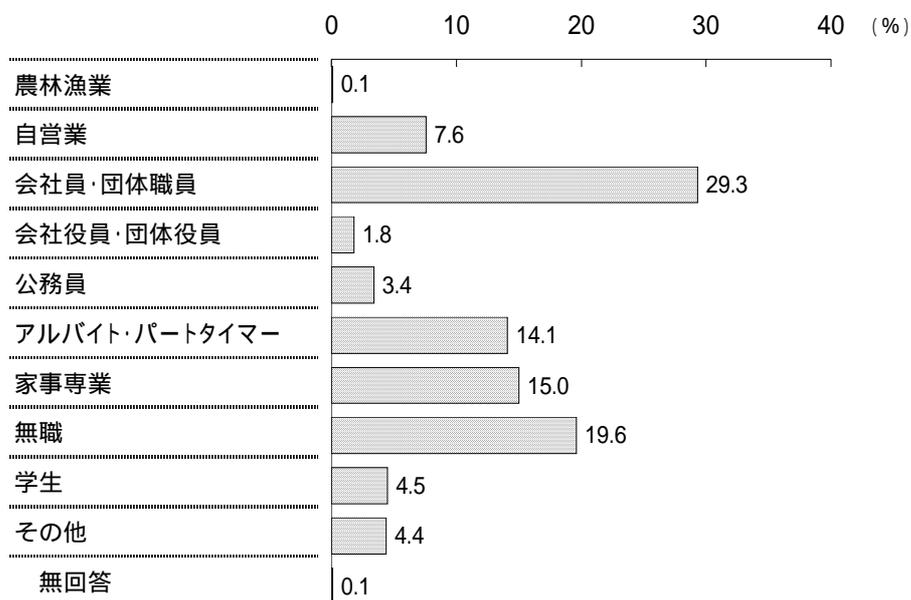
【性別】



【性・年代】

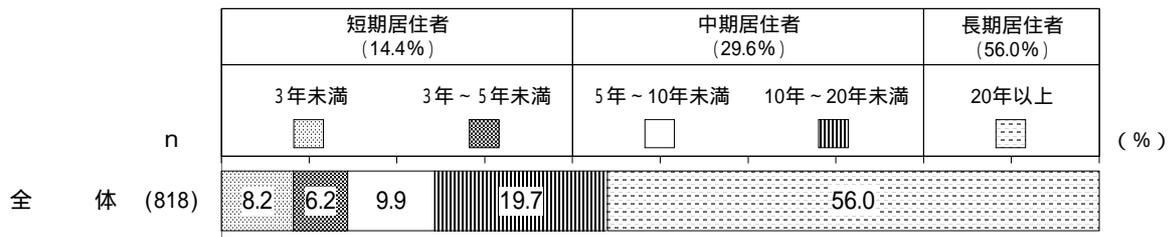


【職業】



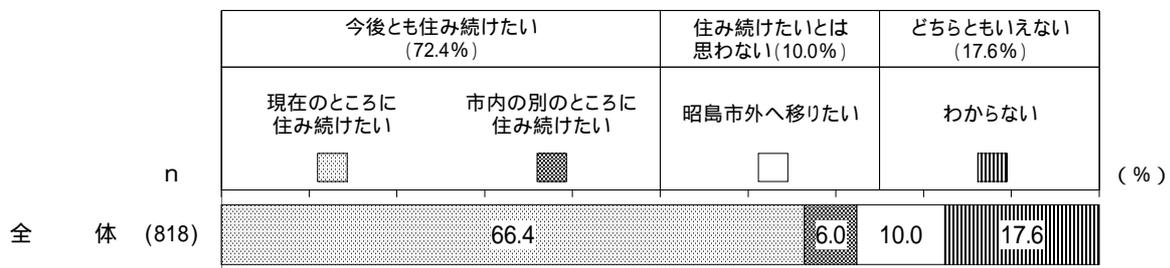
1. 定住意向

(1) 居住年数



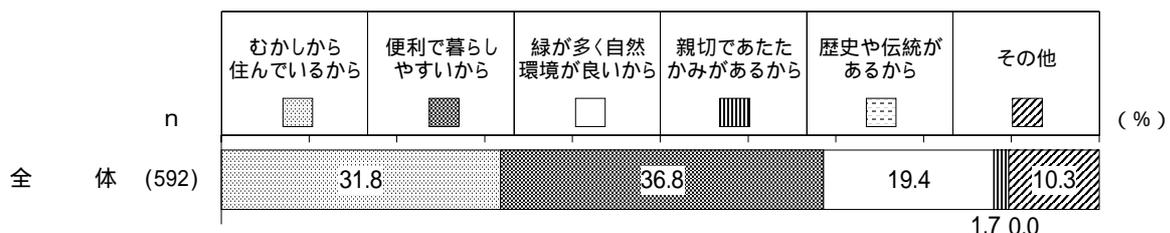
・「3年未満」(8.2%)と「3年～5年未満」(6.2%)を合わせた『短期居住者』(14.4%)が1割半ば、「5年～10年未満」(9.9%)と「10年～20年未満」(19.7%)を合わせた『中期居住者』(29.6%)が3割となっている。また、「20年以上」の『長期居住者』(56.0%)が過半数を占めている。

(2) 定住意向



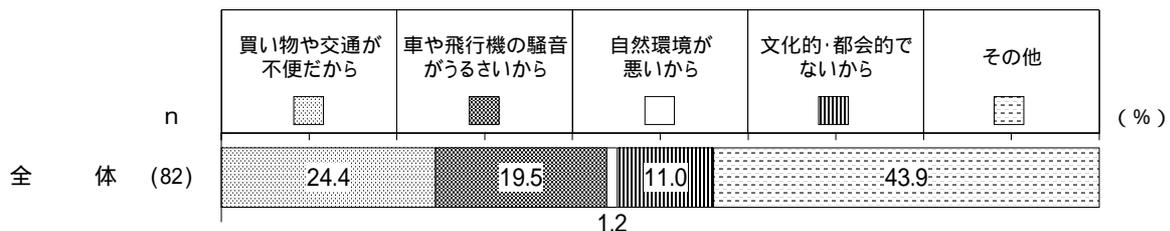
・「現在のところに住み続けたい」(66.4%)と「市内の別のところに住み続けたい」(6.0%)を合わせた『今後とも住み続けたい』(72.4%)が7割を超えている。また、「昭島市外へ移りたい」の『住み続けたいとは思わない』(10.0%)が1割、「わからない」の『どちらともいえない』(17.6%)が2割近くとなっている。

(3) 住み続けたい理由



・「便利で暮らしやすいから」(36.8%)が4割近くと最も多く、次いで「むかしから住んでいるから」(31.8%)、「緑が多く自然環境が良いから」(19.4%)などの順となっている。

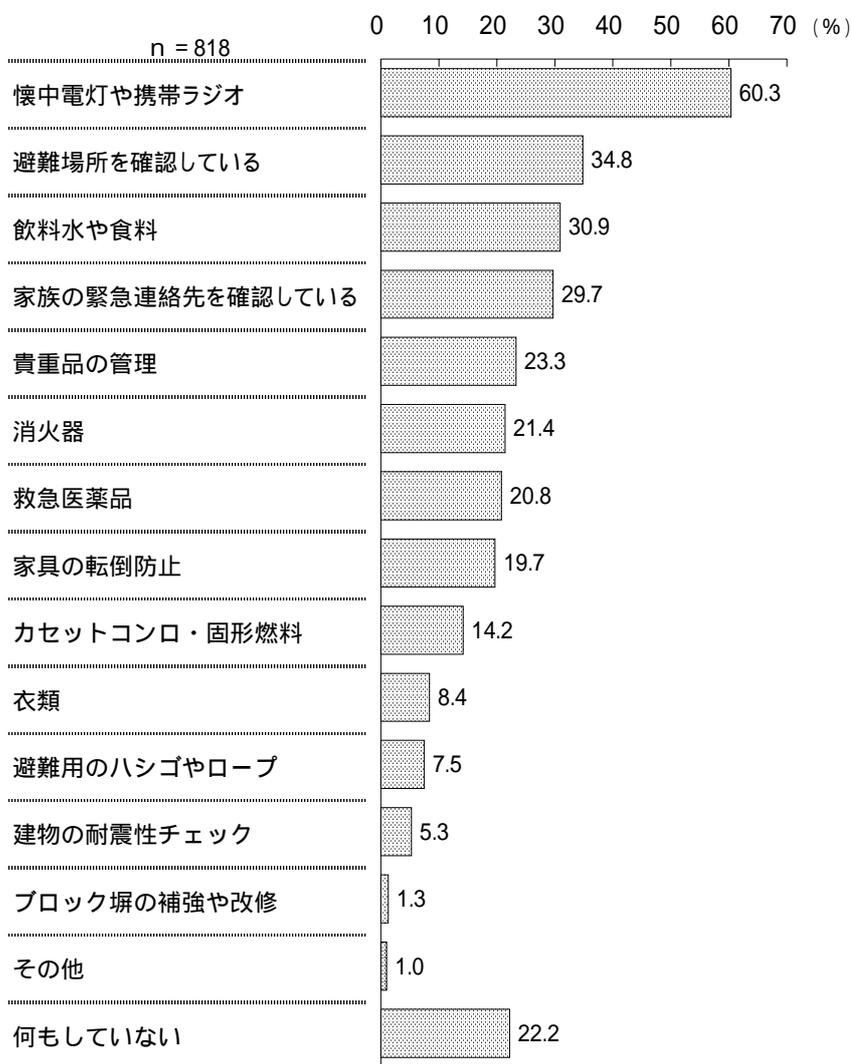
(4) 住み続けたいとは思わない理由



・「買い物や交通が不便だから」(24.4%)が2割半ば、「車や飛行機の騒音がうるさいから」(19.5%)が2割となっている。

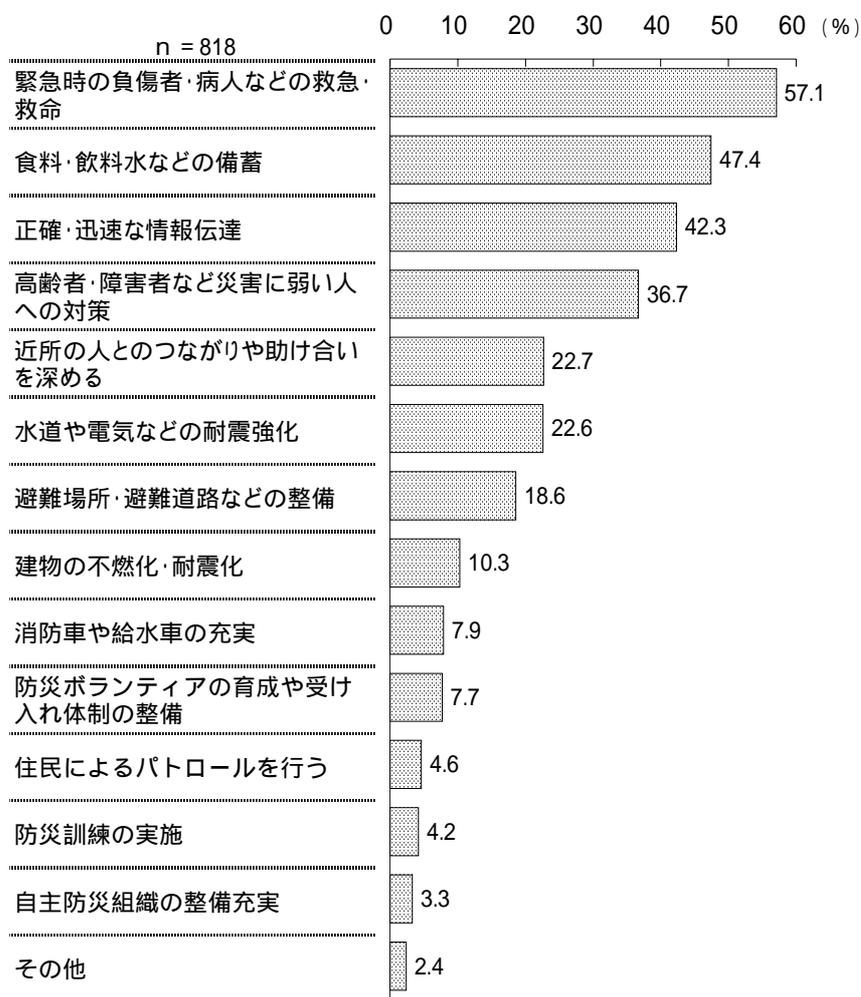
2 . 災害対策等

(1) 災害に対しての備え



- ・ 「懐中電灯や携帯ラジオ」(60.3%) が6割と最も多く、次いで「避難場所を確認している」(34.8%)、「飲料水や食料」(30.9%)、「家族の緊急連絡先を確認している」(29.7%)などの順となっている。

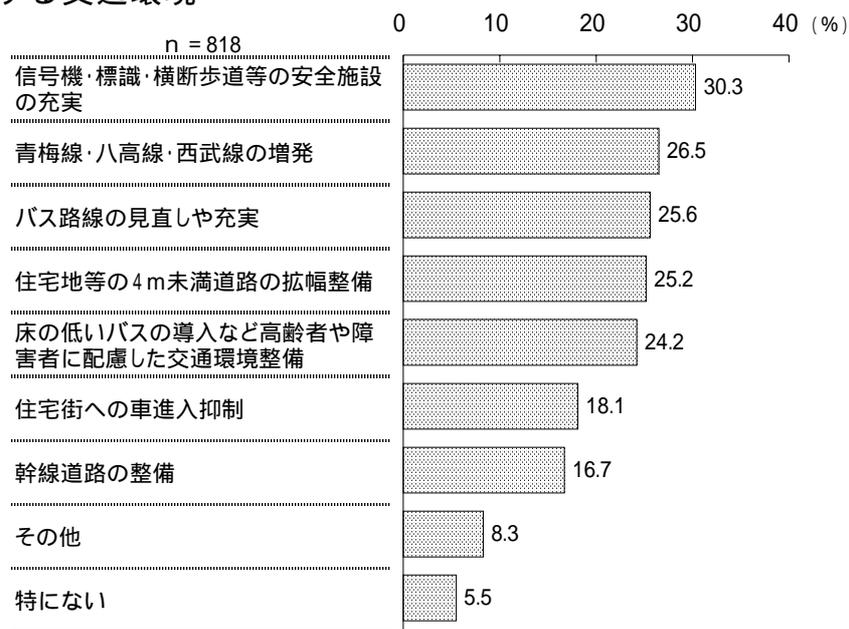
(2) 市の災害対策



- ・ 「緊急時の負傷者・病人などの救急・救命」(57.1%) が 6 割近くと最も多く、次いで「食料・飲料水などの備蓄」(47.4%)、「正確・迅速な情報伝達」(42.3%)、「高齢者・障害者など災害に弱い人への対策」(36.7%) などの順となっている。

3. 交通環境

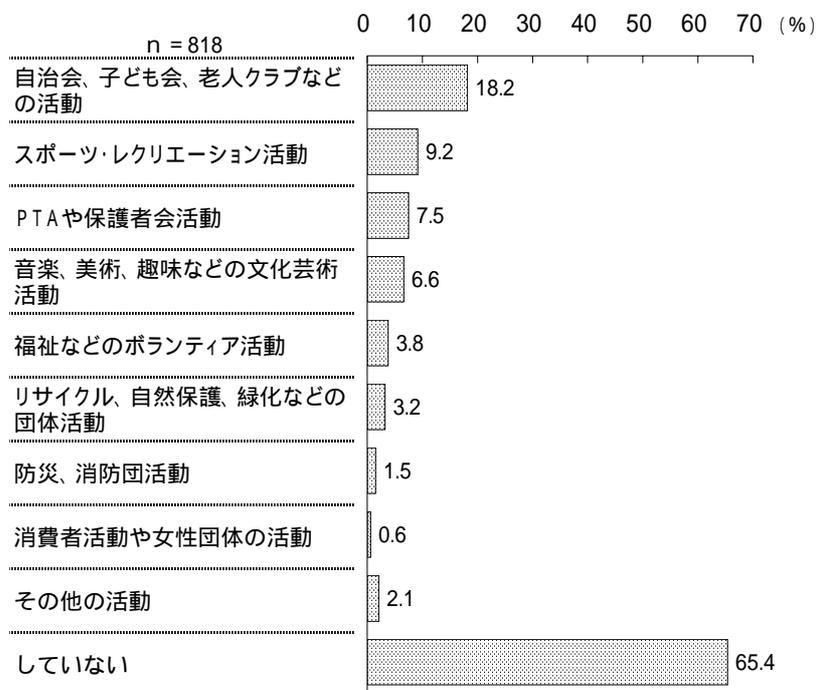
(1) 希望する交通環境



- ・「信号機・標識・横断歩道等の安全施設の充実」(30.3%)が3割と最も多く、次いで「青梅線・八高線・西武線の増発」(26.5%)、「バス路線の見直しや充実」(25.6%)、「住宅地等の4m未満道路の拡幅整備」(25.2%)、「床の低いバスの導入など高齢者や障害者に配慮した交通環境整備」(24.2%)などの順となっている。

4. 地域活動

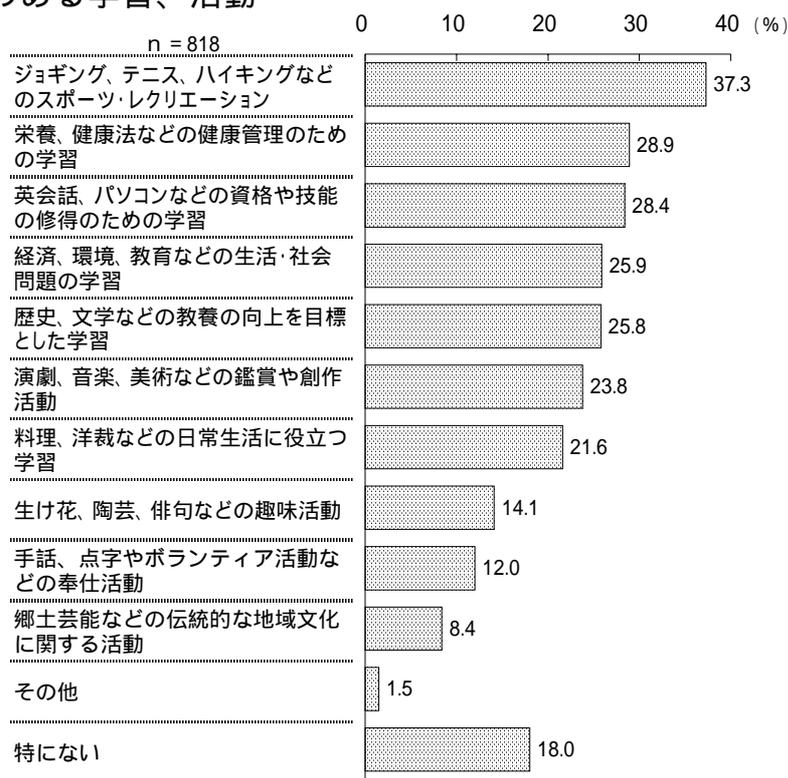
(1) 行っている地域活動



- ・「していない」人(65.4%)が6割半ばを占めている。活動をしている人の中では、「自治会、子ども会、老人クラブなどの活動」(18.2%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」(9.2%)、「PTAや保護者会活動」(7.5%)などの順となっている。

5. 生涯学習

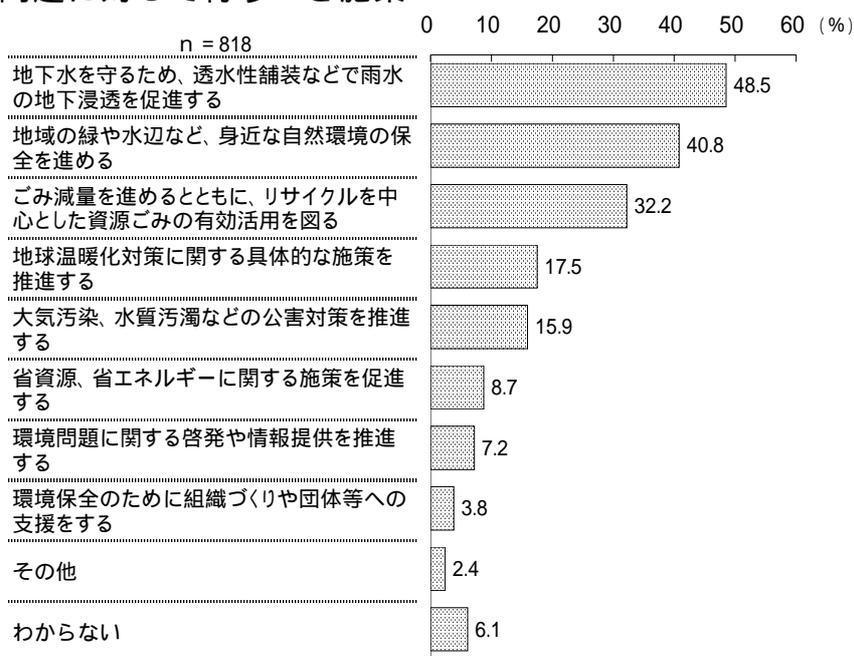
(1) 関心のある学習、活動



- ・「ジョギング、テニス、ハイキングなどのスポーツ・レクリエーション」(37.3%)が4割近くと最も多く、次いで「栄養、健康法などの健康管理のための学習」(28.9%)、「英会話、パソコンなどの資格や技能の修得のための学習」(28.4%)などの順となっている。

6. 環境

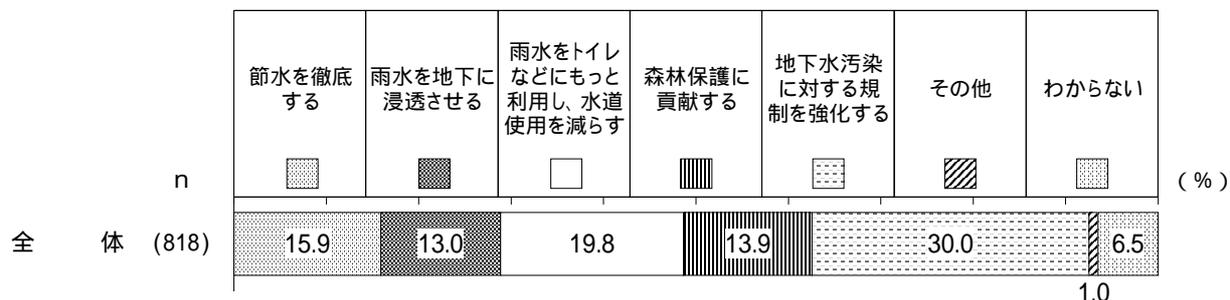
(1) 環境問題に対して行うべき施策



- ・「地下水を守るため、透水性舗装などで雨水の地下浸透を促進する」(48.5%)が5割近くと最も多く、次いで「地域の緑や水辺など、身近な自然環境の保全を進める」(40.8%)、「ごみ減量を進めるとともに、リサイクルを中心とした資源ごみの有効活用を図る」(32.2%)などの順となっている。

7. 昭島の水

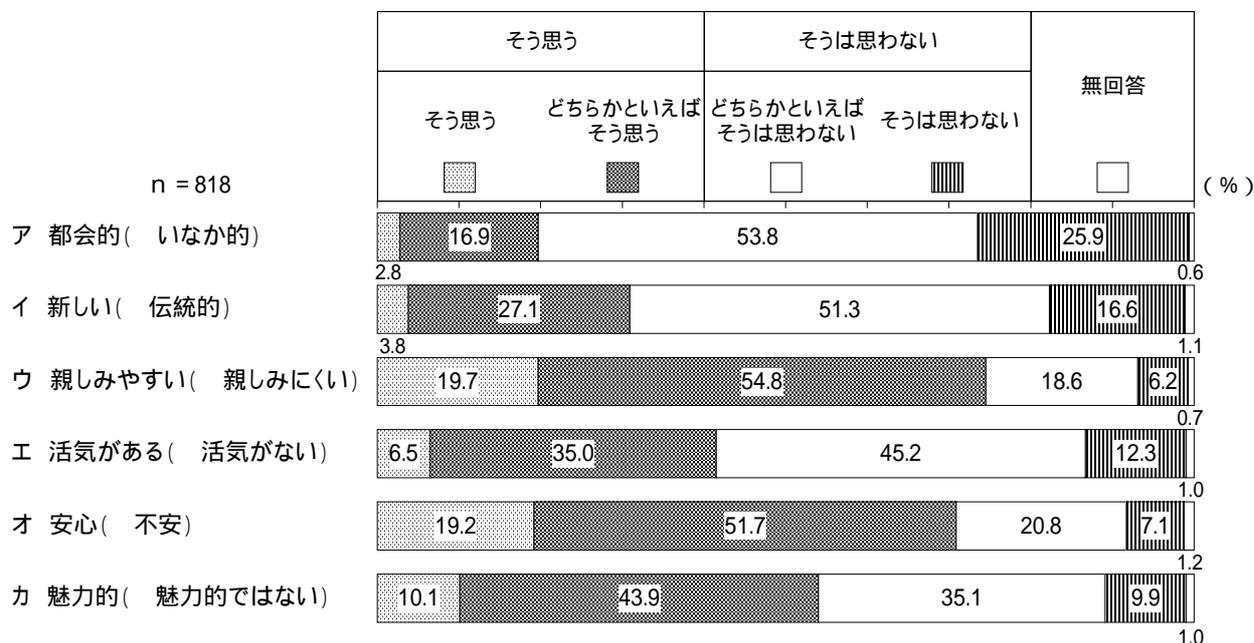
(1) おいしい水を供給するために必要なこと



- ・「地下水汚染に対する規制を強化する」(30.0%)が3割と最も多く、次いで「雨水をトイレなどにもっと利用し、水道使用を減らす」(19.8%)、「節水を徹底する」(15.9%)、「森林保護に貢献する」(13.9%)、「雨水を地下に浸透させる」(13.0%)の順となっている。

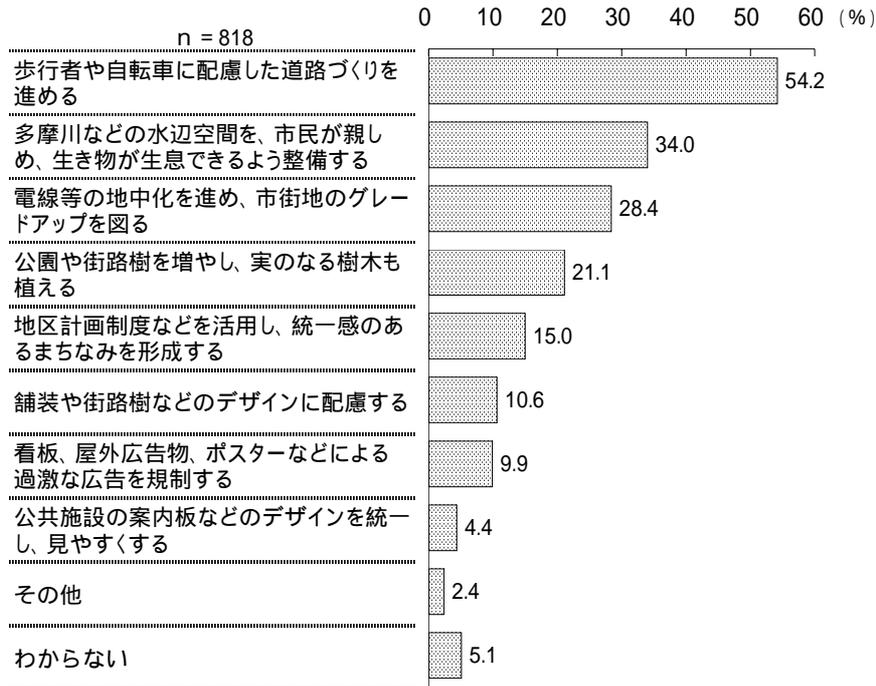
8. 昭島市のまちづくり

(1) 昭島市のイメージ



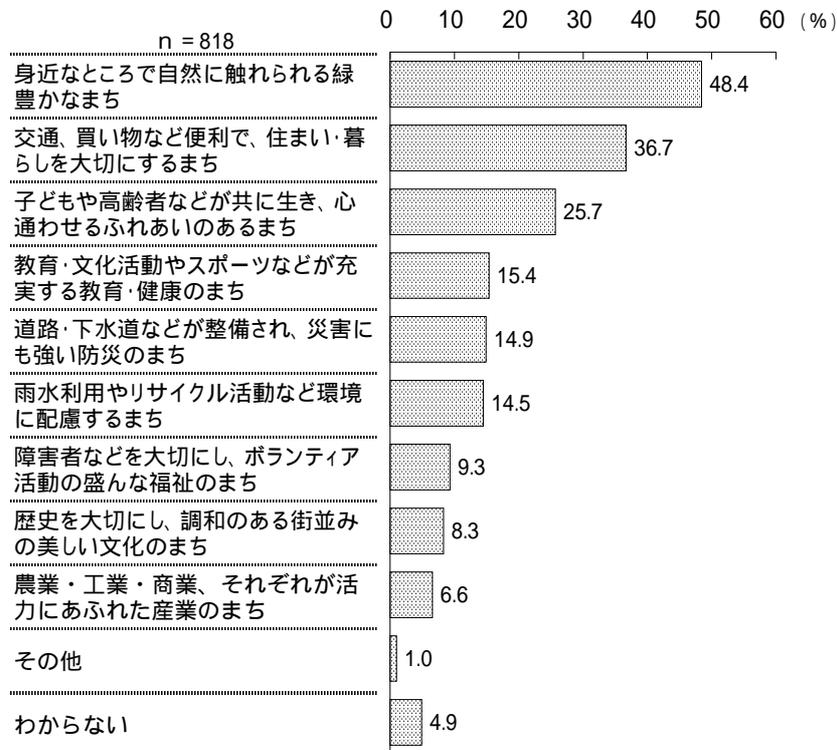
- ・昭島市のイメージや実感について聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』では、【親しみやすい】(74.5%)が7割半ば、【安心】(70.9%)がほぼ7割となっている。一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『そうは思わない』では、【都会的】(79.7%)が8割、【新しい】(67.9%)が7割近くとなっている。

(2) ゆとりある都市基盤整備に必要なこと



- ・「歩行者や自転車に配慮した道路づくりを進める」(54.2%)が5割半ばと最も多く、次いで「多摩川などの水辺空間を、市民が親しめ、生き物が生息できるよう整備する」(34.0%)、「電線等の地中化を進め、市街地のグレードアップを図る」(28.4%)、「公園や街路樹を増やし、実のなる樹木も植える」(21.1%)などの順となっている。

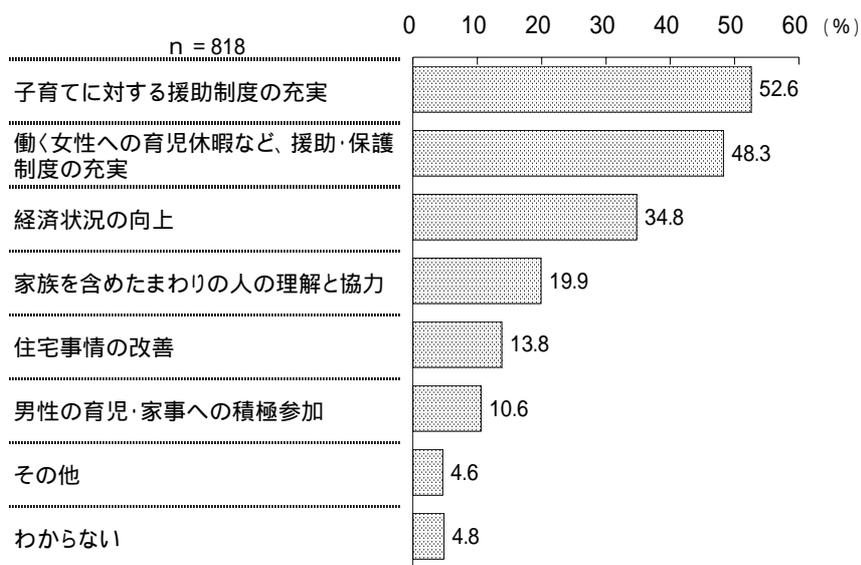
(3) 昭島市の将来イメージ



- ・「身近なところで自然に触れられる緑豊かなまち」(48.4%)が5割近くと最も多く、次いで「交通、買い物など便利で、住まい・暮らしを大切にすまち」(36.7%)、「子どもや高齢者などが共に生き、心通わせるふれあいのあるまち」(25.7%)などの順となっている。

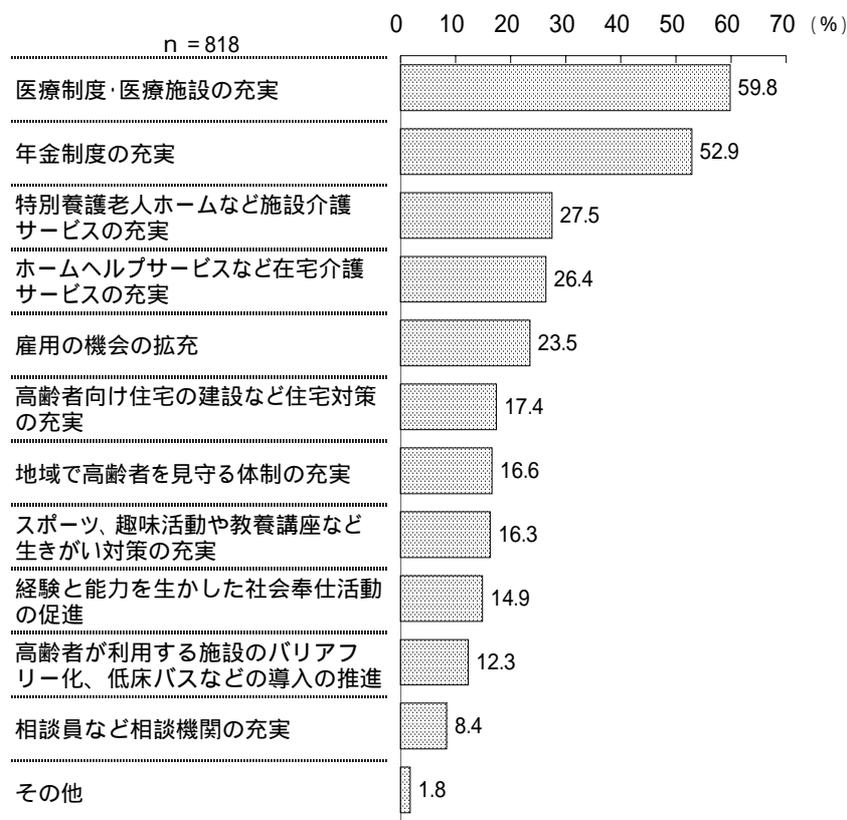
9 . 少子高齢化

(1) 子育て環境に必要なこと



- ・「子育てに対する援助制度の充実」(52.6%) が 5 割を超え最も多く、次いで「働く女性への育児休暇など、援助・保護制度の充実」(48.3%)、「経済状況の向上」(34.8%) などの順となっている。

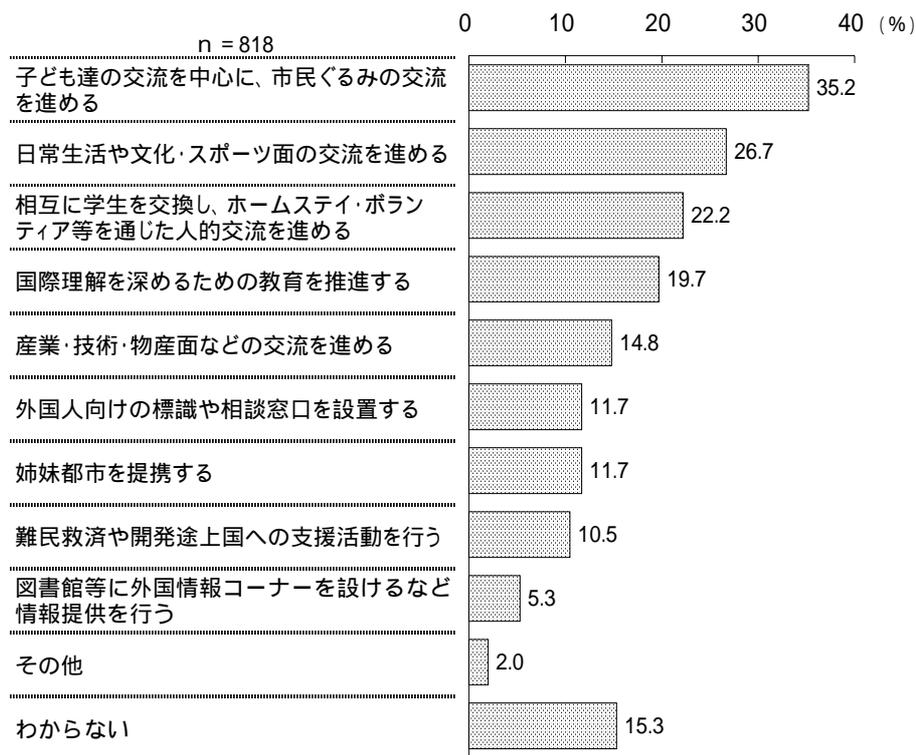
(2) 高齢者のために重要な施策



- ・「医療制度・医療施設の充実」(59.8%) が 6 割と最も多く、次いで「年金制度の充実」(52.9%)、「特別養護老人ホームなど施設介護サービスの充実」(27.5%)、「ホームヘルプサービスなど在宅介護サービスの充実」(26.4%)、「雇用の機会の拡充」(23.5%) などの順となっている。

10. 国際化

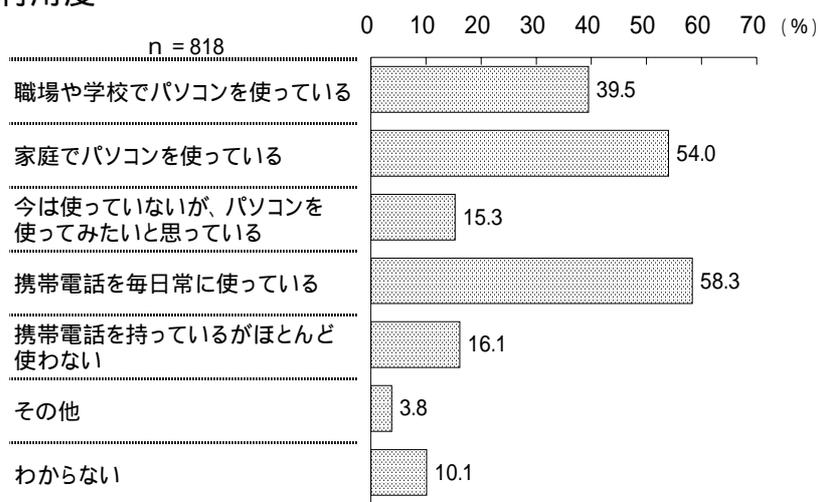
(1) 市民生活における国際交流の推進



- ・「子ども達の交流を中心に、市民ぐるみの交流を進める」(35.2%)が3割半ばと最も多く、次いで「日常生活や文化・スポーツ面の交流を進める」(26.7%)、「相互に学生を交換し、ホームステイ・ボランティア等を通じた人的交流を進める」(22.2%)、「国際理解を深めるための教育を推進する」(19.7%)などの順となっている。

11. 情報化

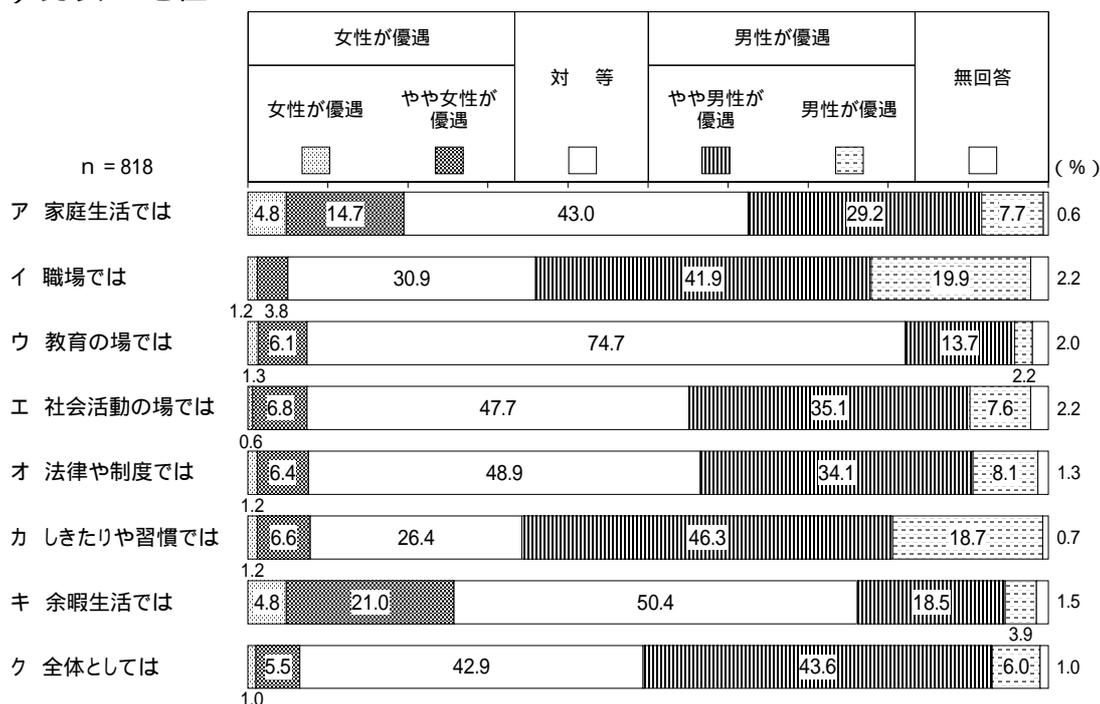
(1) ICT利用度



- ・情報通信技術 (ICT) の利用状況を聞いたところ、パソコンについては「家庭でパソコンを使っている」(54.0%)が5割半ば、「職場や学校でパソコンを使っている」(39.5%)が4割となっている。また、携帯電話については「携帯電話を毎日常に使っている」(58.3%)が6割近くとなっている。

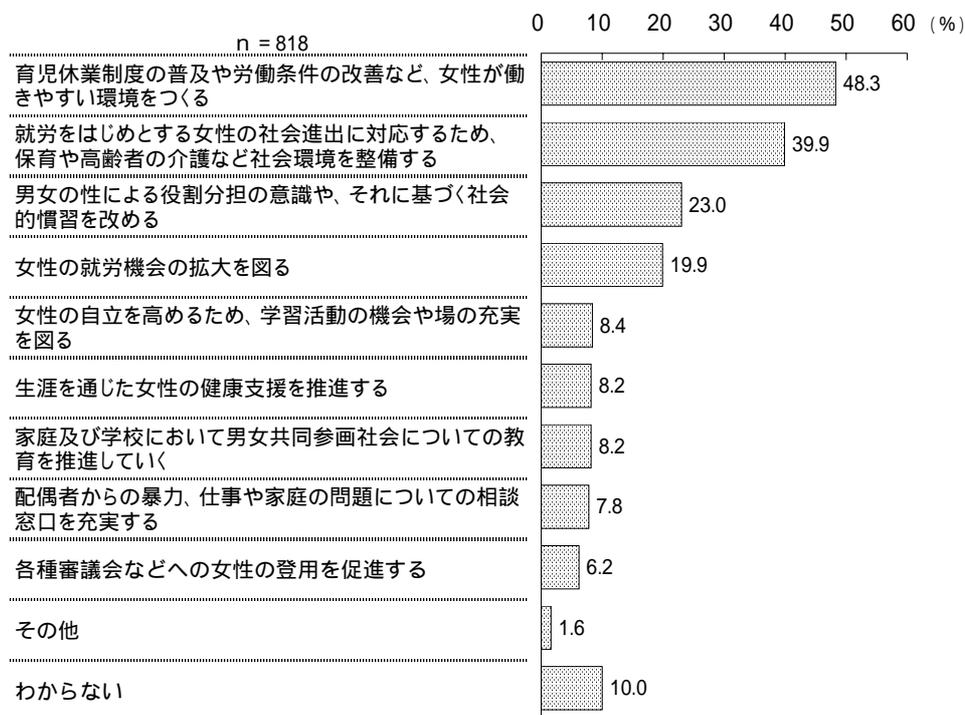
12. 男女共同参画

(1) 男女の地位



- ・各分野における男女の地位を聞いたところ、【全体】では「対等」（42.9%）が4割を超えている。「女性が優遇」と「やや女性が優遇」を合わせた『女性が優遇』は6.5%で、「男性が優遇」と「やや男性が優遇」を合わせた『男性が優遇』（49.6%）が5割となっている。
- ・各項目別にみると、「対等」は【教育の場】（74.7%）が7割半ばと最も多く、次いで【余暇生活】（50.4%）、【法律や制度】（48.9%）、【社会活動の場】（47.7%）となっている。『男性が優遇』の割合が高いのは【しきたりや習慣】（65.0%）と【職場】（61.8%）となっている。

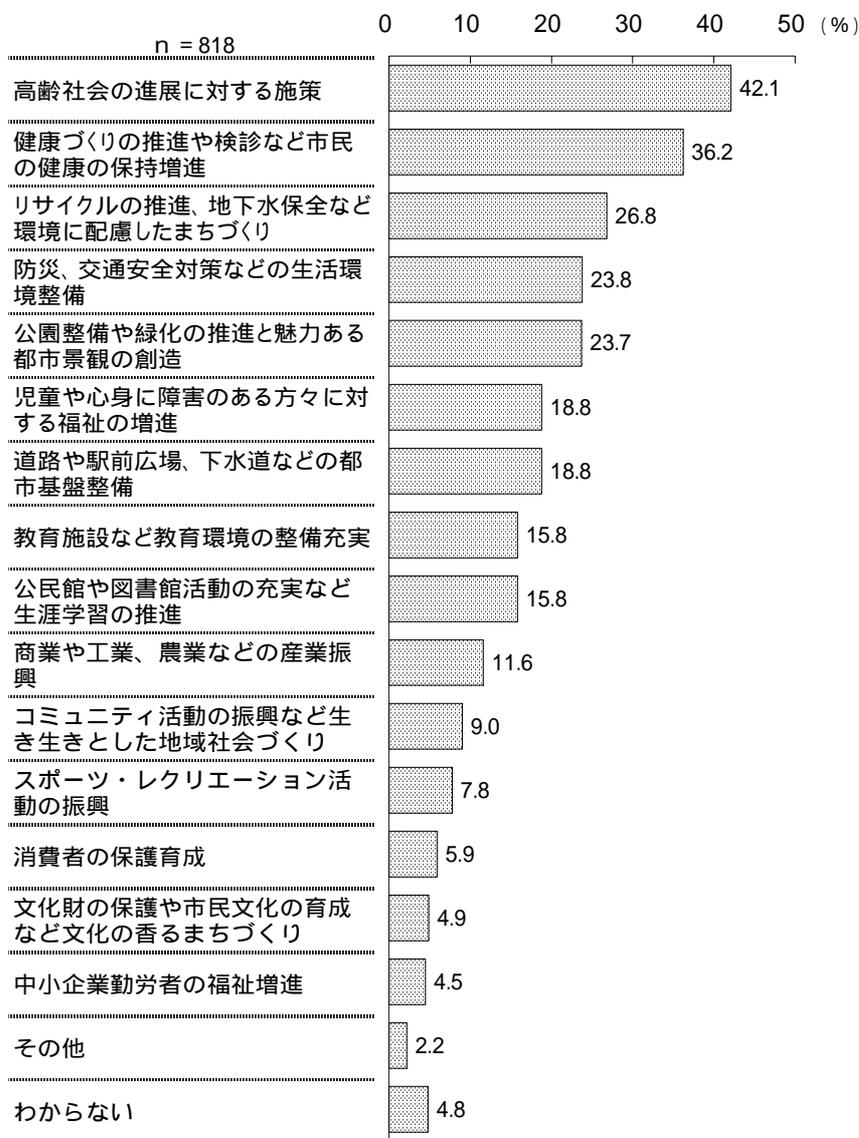
(2) 女性の社会参画や地位向上に必要なこと



- ・「育児休業制度の普及や労働条件の改善など、女性が働きやすい環境をつくる」（48.3%）が5割近くと最も多く、次いで「就労をはじめとする女性の社会進出に対応するため、保育や高齢者の介護など社会環境を整備する」（39.9%）、「男女の性による役割分担の意識や、それに基づく社会的慣習を改める」（23.0%）などの順となっている。

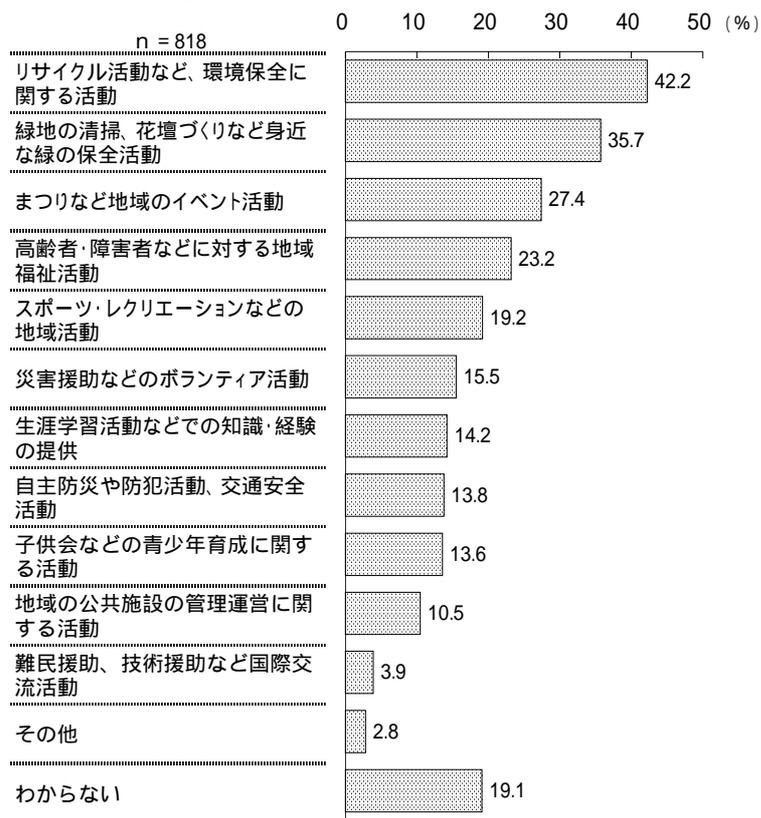
14. 重点施策と公共施設等

(1) 住みよくするための重点施策



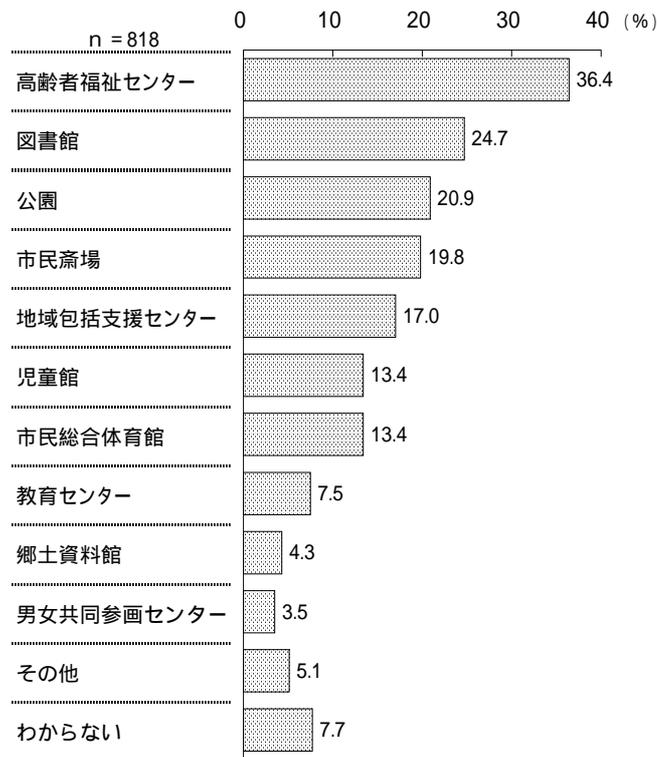
- ・「高齢社会の進展に対する施策」（42.1%）が4割を超え最も多く、次いで「健康づくりの推進や検診など市民の健康の保持増進」（36.2%）、「リサイクルの推進、地下水保全など環境に配慮したまちづくり」（26.8%）、「防災、交通安全対策などの生活環境整備」（23.8%）、「公園整備や緑化の推進と魅力ある都市景観の創造」（23.7%）などの順となっている。

(2) 参加できる市民活動



- ・「リサイクル活動など、環境保全に関する活動」(42.2%)が4割を超え最も多く、次いで「緑地の清掃、花壇づくりなど身近な緑の保全活動」(35.7%)、「まつりなど地域のイベント活動」(27.4%)などの順となっている。

(3) 整備・充実すべき公共施設



- ・「高齢者福祉センター」(36.4%)が3割半ばと最も多く、次いで「図書館」(24.7%)、「公園」(20.9%)、「市民斎場」(19.8%)などの順となっている。

昭島市 市民意識調査 概要版

平成 21 年 3 月

発 行 昭島市企画部 総合基本計画担当
〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
電 話 042-544-5111 (代表)

実 施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋三丁目 11 番 20 号
電 話 03-3239-0071 (代表)